

質問 1 : 事前

新型コロナウイルス感染拡大影響下で、オゾン空気清浄機等の営業活動が不十分だったのではないかと（ご質問）

<回答>

当社は、グループを挙げて、オゾン関連製品の積極的な営業活動と、増産体制の整備を進めました。この結果、当期の空気清浄機の販売台数は、前期比で 20 倍となっています。

質問 2 : 事前・当日

ロケット開発をはじめとする宇宙開発事業への今後の取組みについて（ご質問）

<回答>

当社グループでは、大型ロケットの H3、中型ロケットのイプシロン S、小型ロケットのスペースワン（カイロス）の、3つの新型ロケットの開発に参画しています。コスト競争力のあるロケットを実現し、衛星打ち上げサービスを求める世界中のお客さまのニーズに対応していきます。

また、人工衛星から取得したデータを処理して、必要とするお客さまに提供するソリューションビジネスも展開しています。

質問 3 : 事前 当日

次期戦闘機用エンジンをはじめとする防衛事業の取組みについて（ご質問）

<回答>

当社は、推力 15 トン級のプロトタイプエンジンを設計・製造し、2018 年 6 月に防衛装備庁へ納入しています。この実績も踏まえ、次期戦闘機開発におけるエンジンの開発、製造、運用支援・整備に、当社は大きく貢献できるものと考えています。

防衛省殿向け航空エンジンおよび関連機器の開発、製造等を通じて、我が国の安全保障に貢献することは、当社にとって大変重要であると考えています。

質問 4 : 事前 当日

水素関連事業への取組みについて（ご質問）

<回答>

水素およびアンモニア関連技術は、脱 CO2 社会に向けて重要な分野の一つであり、当社では特にアンモニアに注目しています。アンモニアは水素原子を含む化合物で、既存の技術を利用して輸送や貯蔵が可能なため、水素を運ぶ手段として有望です。また当社は、化石燃料にアンモニアを混焼させて CO2 を削減する技術で世界をリードしており、石炭火力発電所やガスタービン発電プラントでの実証を進めています。

質問5：当日

車両過給機事業の今後の事業展開について（ご質問）

<回答>

当面は、エンジン車およびハイブリッド車向けの車両過給機（ターボチャージャー）の売上が維持できるものと見通しています。その先の自動車技術の趨勢は、まだ不透明ですが、特にトラック、産業機械、船舶、列車などのディーゼルエンジンに代わる動力源として、燃料電池システムへの移行が有望視されています。

燃料電池は水素と圧縮空気中に含まれる酸素とを反応させて電気を作り出すため、空気を圧縮する過給機を必要とします。当社は、燃料電池車向け電動ターボチャージャーの開発を進めており、既に量産車へも採用されています。

質問6：事前

地球温暖化防止に向けた研究開発の取組みについて（ご質問）

<回答>

「プロジェクト Change」の対象期間である2020年度からの3年間の投資総額は、約3,800億円を計画しており、そのうち研究開発費は約1,000億円で、その5割以上を成長事業創出へ投資していきます。

この成長事業創出のための研究開発費の大半は、カーボンニュートラルを目指すアンモニア燃焼や、航空機、燃料電池車に必要な電動デバイスなど、地球温暖化防止につながる投資となるものです。

質問7：事前

役員報酬を返上すべきである（ご意見）

<回答>

招集ご通知40ページに記載のとおり、当期の取締役の基本報酬については、新型コロナウイルス感染拡大による事業への影響を踏まえ、その一部を返上しています。

また、当期の業績連動賞与につきましては、取締役全員がゼロとなっています。

質問8：事前

役員が所有する当社の株式数が少ない（ご意見）

<回答>

本株主総会における第1号議案、第2号議案では、取締役・監査役として求められる役割を果たせる方を候補者としてご提案いたしました。

なお、社内取締役については、長期インセンティブとして、「業績連動型株式報酬」を設定しており、株主の皆さまと価値を共有することができると考えています。

質問 9 : 事前

当社の株価をあげてもらいたい（ご意見）

<回答>

株価については、常に重大な関心をもって注視しています。

当社としましては、社会課題の解決につながる事業活動を進め、着実に収益を得ることで、企業価値を向上させるべく取り組んでいます。

質問 10 : 事前

黒字であるにも関わらず「プロジェクト Change」のための投資を優先して無配となることは納得できない（ご意見）

<回答>

当期の業績は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、コスト削減などに取り組んだものの、利益は不十分な水準でした。大きく変化する経営環境のもと、当社の企業価値を向上させるためには、「プロジェクト Change」に掲げた成長事業の創出が最優先課題であり、そのための投資が不可欠です。

株主の皆様のご期待に沿えなかったことは誠に申し訳ありませんが、なにとぞご理解賜りたいと存じます。

なお、2021 年度につきましては、中間 30 円、期末 30 円の 60 円配当を予定しており、株主の皆さまのご期待にたがわぬよう、しっかりと取り組んでまいります。